

ロシアにおける教育改革と教師教育の現代化

Educational reform and modernization of teacher education in Russia

森岡 修一

Shuichi Morioka

大妻女子大学文学部

Faculty of Language and Literature, Otsuma Women's University

キーワード : 教育スタンダード, 補充教育, アイデンティティ, 職業教育

Key words : Educational standard, Extra-curricular education, Identity, Career education

1. 研究目的

本研究では、「過去 25 年間に体制転換に伴う大きな変化を経験した旧ソビエト諸国の教育改革と教員養成・研修との関連に焦点を当て、両者の間隙をいかに埋めれば効果的な教育改革となり得るか、という論点を中心に考察する」ことを目的として掲げ、具体的手順として「1. 1980 年代後半からの教育改革動向を教師教育に焦点をあてて分析. 2. 近年の学力観変容に対応した教員養成・研修の制度改革の実態を解明. 3. 多様なアクターによる教員養成・研修プログラム開発と実践の事例研究. 4. 改革の担い手が直面してきた諸問題とその解決策」を提示した。

2. 研究内容及び成果

今年度は、特に上記項目のうち 1, 2, 3 を中心に作業を進める研究計画に基づき、学外の研究者グループ（ロシア人研究者を含む）との緊密な連携により、おおむね順調な成果を得た。ロシアでの現地調査の時期については、ロシアアカデミーなどとの関連で、2016 年 2 月 24 日（水）～29 日（月）に今回はモスクワの現地の調査協力を受けながら以下の機関で実態調査を進め、キーパーソンからの聞き取り調査と文献・資料の収集・分析を行い、さらに諸教育機関においては、「補充教育」関連の授業観察を行い所期の成果を上げることができた。

< 主要訪問先 > ①ロシア連邦教育・科学省子ども・青少年訓育分野国家政策局, ②モスクワ市教育長社会化・補充教育局, ③創造センター「テフノラーマ」, ④モスクワ補充教育学講座, ⑤ロシ

ア国立ヴィゴツキー記念心理インスティトゥート, ⑥ロシア国立社会大学, 他。

特に⑤のインスティトゥートでは、申請者のヴィゴツキー等の翻訳書を贈呈して同記念館の所蔵とすることができ、大きな成果を得た。

20 世紀末から 21 世紀初頭にかけて、多民族国家ロシア連邦においては、旧ソ連邦解体後の急速な市場経済体制化にともなう科学技術革新、ならびに経済体制の国際化に対応した教育改革が重要課題となり、各共和国では、EU の動向をはじめとするグローバリズムを射程に収めた新たな教育改革への取り組みが進行した。

新体制後、教育の分野で最も大きな変化がみられるのが、カウンセリングや就職支援活動の法的部門（96 年労働省令, 98 年連邦政府命令 等）の整備と実質化への取り組みである。雇用センター、キャリア情報・指導・相談センター等の教育の充実が図られ、同時に「学校心理士」が重要な役割をになうようになったために、多くの複合的な支援センターが設置されるようになり、一定の成果を上げている。心理士や社会教育士の配置を必要とする教育機関も増加し、その必要性が高まってきたところから、機関長の決定があれば配置可能とするなどの処置を講じた。これに対し「ソーシャルワーカー」は社会発展省の管轄下で、居住地域における住民を対象にしたサービスを提供するものであり、さらに、企業や民間会社などで、年金や福祉に関する社会問題を解決するための「ソーシャルワーク専門士」が新設された。

これらの導入の背景としては、1990 年代からの社会経済状況の激変、教育制度の改革に伴う学生や労働者のアイデンティティ・クライシスがあげ

られる。それまで青少年の「社会化」に欠かせない主要な学校外システムであった、ピオニールやコムソモールといった青少年組織が解体したことも、青少年を取り巻く社会環境の変化に多大な影響を及ぼした。つまり、彼らの社会的活動を組織する媒体システムが消滅し、新たな教育システムの枠内で対応することを余儀なくされた結果ということができる。2004 年のカリキュラム改訂では、第 9 学年のテクノロジー（労働）の時間を「分野別準備教育」とすることによって、キャリア教育（職業指導）を集中的に行うカリキュラムが組まれた。「分野別準備教育」は、生徒の関心・個性・能力等に応じたさまざまな実践的活動を通じて、キャリア選択へのオリエンテーションを行うこと、さらに職業に対する具体的で柔軟かつ確固とした価値観の育成、ならびに彼らに対する教育学的・心理学的支援を課題としている。その後、上級学年の第 10・11 学年では、さらに「分野別教育」が行われるとともに、生徒自身が自らの適性や能力に応じた専門的方向を見定め、責任ある選択のできる「社会的・職業的自己決定能力」をそなえることが要求されることになった。

こうした動向において、新たな課題として浮上してきたのが「補充教育」である。かつて重要な人格形成の機能を担ってきたピオニール等の解体とともに、必須の教育システムとして浮上してきたのが多様な「補充教育（機関）」であった。

今回の訪問学術機関の重点を補充機関に絞った意図は、その点にある。

今回の調査では以下の点が明らかとなった。

補充教育にとって考慮すべき「平等な可能性の学校」（公正性）の理論的モデルの成果の指標としては、1. すべての学齢期の子どもを教育に参加させ、定員を保つこと、2. 専門教育のコースの選択の可能性、3. 社会文化的環境のもとで首尾良い社会化を図ること、4. 教育過程の参加者間における相互の信頼と尊敬、などが重要である。

また、また成果（効率性）の主要因としては、1. 教育条件（さまざまな教育的支援の必要な子どもに対する個人的配慮の組織化、心理学的、医学・社会的保護の組織化、子どもの安全の保障等）、2. 教育的諸コースの選択の可能性（多様な教育的プログラム、補助教育のプログラム、家庭教育のサポート、社会的プロジェクトの実現）、3. 教育の質の教育学的保障（ベテラン教員の効率的利用、機能的リテラシー、社会的能力の形成のプロ

グラム、教材の教育学的複合、生徒の「レベルの」成績証明、4. 補助的財源の確保と利用、といったものが不可欠である。

さらに、近年のロシアにおける「教育スタンダード」改革にヴィゴツキー、レオンチェフ等の心理学理論が多大な影響を与えており、＜異年齢集団での協同＞＜文化的・歴史的＞原理が重視されていることが明らかとなった。彼らの理論について申請者はこれまで翻訳書、研究論文等を発表しており、とりわけ「ロシア国立ヴィゴツキー記念心理インスティテュート」での学術交流は多いものであり、今後も同インスティテュートの研究者と連携しつつ、論点の深化を図っていきたい。

3. まとめと今後の課題

「民主化」には「民主化にとっての教育」と「教育の民主化」の 2 つの意味がある。前者は知識の翻訳、習熟形成、民主的な生活の経験の形成などを含み、後者には教育的可能性の平等、自由な教育理念の発見的可能性の利用、管理や教育の民主的な方法の利用などが含まれる。

これを教育施設や地域レベルで実現するには、生徒の 3 つの権利が保障されなくてはならない。第 1 は、教育の分野における生徒の権利の保障システムの組織化、第 2 は、教育の過程にかかわっている者の法律的教養の向上と民主的価値観の形成、そして第 3 は、教育の分野における子どもの権利の遵守に関する情報の周知である。

今後は、これらのサブカテゴリーについてさらに分析を進め、生徒に対する教師の意識の変化、ならびに教師自身のメタ認知の変化（教職と自身とのかかわり方の言説分析）等を具体的に検討していく予定である。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

- [1]森岡修一「多民族国家における文化と教育—20 世紀末から 21 世紀初頭のロシアの教育変動を中心に—」人間学研究所年誌 2015、査読有、第 13 巻、2016 年 3 月 10 日、PP.93-115.
- [2]嶺井明子・岩崎正吾・松永裕二・森岡修一他『ロシアにおける教育改革と教師教育の現代化に関する総合的調査研究』文科省科研費基盤研究 B(平成 27-29) 中間報告書、現在印刷中。

②学会発表

[1]北野秋男・大庭由子・石森広美・森岡修一
「学力政策の比較研究」日本国際教育学会課題

研究，2015 年 9 月 13 日，相模女子大学.
(『国際教育』第 22 号，2016 年秋刊行予定)

(2016 年 3 月 31 日現在)